



学 会 通 信

第 84 号

2017 年 9 月 18 日発行

目次

2017 年度定例会総会開催通知（会告）	2
第 24 回年次大会のご案内【直前号】	8
ICoME 2017 のご報告	18
第 1 回企画委員会 ワークショップのご報告	20
理事会（定例）議事録（抄）	22
編集委員会からのお知らせ	24
学会費納入のお願い、入会者・退会者	25

2017年度定例会総会開催通知（会告）

2017年度定例会総会開催通知（会告）

正会員各位

下記により2017年度日本メディア学会定例総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている様式で委任状をお送りください（2017年10月6日（金）必着）。

2017年9月19日
日本教育メディア学会
会長 黒上 晴夫

記

1. 日 時：2017年10月14日（土）12:30－13:20（第1日目）

2. 場 所：茨城大学

3. 内 容：

（1）議案

第1号議案 2016年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2016年度収支決算（案）、監査報告

第2号議案 2017年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2017年度収支予算（案）

第3号議案 日本教育メディア学会論文賞の創設について

第4号議案 日本教育メディア学会理事選挙規定の改正について

(2) 報告事項

- ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告
- ②『教育メディア研究』特集および投稿募集の件
- ③2018年度年次大会の件
- ④その他

以上

(1) 議案

第1号議案 2016年度事業報告及び収支決算承認の件

2016年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

- 1. 「教育メディア研究」第23巻1号，第23巻2号を刊行し，会員に配布した。
- 2. 学会通信第77号（2016年5月13日発行），第78号（2016年7月28日発行），第79号（2016年11月4日），第80号（2017年1月10日発行），第81号（2017年3月7日発行）を刊行し，会員に配布した。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第23回年次大会を，奈良教育大学で開催した（2016年11月26日～11月27日）。また，「第23回年次大会発表論文集」を刊行した。

③学術交流等

- 1. 次の研究会を開催した。
 - (1) 2016年度第1回日本教育メディア学会研究会「ICT時代の実践研究／一般」（2016年7月17日：茨城大学）
 - (2) 2016年度第2回日本教育メディア学会研究会「新学習指導要領と教育メディア／一般」（2017年3月4日：信州大学）

- 2. ICoME2016を共同開催した。（2016年8月18日～8月20日：京都外国語大学）

- 3. 企画委員会によるワークショップを開催した。
 - (1) 研究委員会との合同ワークショップ「ICT時代の教育実践 ～教育実践から学ぶ、そして実践報告から実践研究へ～」（2016年7月17日：茨城大学）
 - (2) ワークショップ「デジタル教科書のメリット・デメリットを考える」（2017年2月10日：株式会社内田洋行新川ユビキタス協創広場CANVAS）

2016年度収支決算（自2016.4.1～至2017.3.31）

1. 収入の部

収入項目	当初予算	決算額	差額	備考
繰越金	3,645,404	3,645,404	0	2015年度から繰り入れ
正会員会費	1,750,000	1,925,000	175,000	275名分
学生会員会費	116,000	128,000	12,000	32名分
団体会員会費	300,000	300,000	0	6団体
購読会員会費	70,000	49,000	▲ 21,000	7会員
過年度正会員会費	196,000	469,000	273,000	67名分
過年度学生会員会費	16,000	4,000	▲ 12,000	1名
過年度団体会員会費	0	0	0	0団体
過年度購読会員会費	21,000	21,000	0	3会員
入会金	30,000	88,000	58,000	44名分
雑収入	200,000	239,854	39,854	別刷り印刷、利子
計	6,344,404	6,869,258	524,854	

2016年度収支決算（自2016.4.1～至2017.3.31）

2. 支出の部

支出項目	当初予算	決算額	差額	備考
通信運搬	300,000	112,882	▲ 187,118	学会誌・別刷郵送費、その他郵送費
消耗品	100,000	1,848	▲ 98,152	用紙、封筒
設備・什器	0	0	0	
印刷製本	1,000,000	1,185,904	185,904	教育メディア研究23(1)・23(2)
会議費	100,000	26,142	▲ 73,858	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	850,000	1,013,092	163,092	ICoME2016開催補助費
借損料	50,000	21,760	▲ 28,240	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	200,000	61,560	▲ 138,440	監査に係る旅費、事務員旅費
諸謝金	500,000	480,000	▲ 20,000	事務局補助謝金
年次大会委託費	400,000	▲ 20,946	▲ 420,946	参加費等による黒字
研究会委託費	200,000	80,737	▲ 119,263	参加費等による黒字
企画委員会委託費	100,000	169,547	69,547	
雑費	60,000	37,399	▲ 22,601	振込手数料、ホスティングサーバー料金、DNS料金
予備費	2,484,404	0	▲ 2,484,404	
次年度繰越金	0	3,699,333	3,699,333	2017年度に繰り越し
計	6,344,404	6,869,258	524,854	

第2号議案 2017年度事業計画及び収支予算案

2017年度に実施する事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第24巻1号、第24巻2号を刊行し、会員に配布する。
2. 学会通信第82号～第86号を刊行し、会員に公開する（メーリングリスト、Webサイト）。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第24回年次大会を、茨城大学で開催する（2017年10月14日～10月15日）。また、「第24回年次大会発表論文集」を刊行し、申込者に配布する。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催する。
 - (1) 2017年度第1回日本教育メディア学会研究会
(2017年7月15日：金沢星稜大学)
 - (2) 2017年度第2回日本教育メディア学会研究会
(2018年3月3日：尚美学園大学)
2. ICoME2017を共同開催する。（2017年8月2日～4日：ハワイ大学マノア校）
3. 企画委員会企画を年2回（7月および2月）開催する。

2017年度予算（自2017.4.1～至2018.3.31）

1. 収入の部

収 入 項 目	前年度決算	予算額	備 考
繰越金	3,699,333	3,699,333	2016年度から繰り入れ
正会員会費	1,925,000	1,631,000	7,000円×233名（納入率80%）
学生会員会費	128,000	100,000	4,000円×25名分（納入率65%）
団体会員会費	300,000	300,000	6団体
購読会員会費	49,000	70,000	10会員
過年度正会員会費	469,000	126,000	7,000円×18名分（未納者の30%）
過年度学生会員会費	4,000	8,000	4,000円×2名分（未納者の20%）
過年度団体会員会費	0	0	
過年度購読会員会費	21,000	21,000	3会員
入会金	88,000	50,000	25名分
雑収入	239,854	200,000	別刷り印刷、雑誌販売、利子
計	6,869,258	6,205,333	

2017年度予算（自2017.4.1～至2018.3.31）

2. 支出の部

支 出 項 目	前年度決算	予算額	備 考
通信運搬	112,882	300,000	学会誌・別刷郵送費、その他郵送費
消耗品	1,848	100,000	用紙、封筒
設備・什器	0	0	
印刷製本	1,185,904	1,000,000	教育メディア研究24(1)・24(2), 別刷
会議費	26,142	100,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	1,013,092	0	ICoME2017国外開催のため
借損料	21,760	50,000	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	61,560	200,000	監査に係る旅費, 事務局会旅費, 事務員旅費
諸謝金	480,000	550,000	事務局補助謝金, J-Stage移行謝金
年次大会委託費	▲ 20,946	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	80,737	200,000	研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	169,547	200,000	企画委員会委託費 2回分
雑費	37,399	100,000	振込手数料, ホスティングサーバー料金, DNS料金, 選挙システム準備金
予備費	0	3,005,333	
次年度繰越金	3,699,333	0	
計	6,869,258	6,205,333	

第3号議案 日本教育メディア学会論文賞の創設について

(1) 経緯

これまで、「日本視聴覚教育協会・井内賞」が平成19年度から授与されてきたが、昨年度をもって終了するという通知を受けた。本件に関しては2016年度理事会および、総会で報告済みで、今後何らかの賞について出すことは決められたが、理事会で検討する事になっていた。

(2) 本総会における提案

- a. 「日本教育メディア学会論文賞」として、賞を授与する。
- b. 優秀な論文に対して賞を与えるが、その筆頭著者は学会員であることを条件とする。
- c. 賞金を5万円とする。

第4号議案 日本教育メディア学会理事選挙規定の改正について

電子投票を可能とするための理事選挙規定の改正を提案する。

旧	新
<p>第11条 (1) 有権者は、所定の投票用紙を用いて投票する。 (2) 投票は、1人1票とする。 (3) 投票は、無記名とする。 (4) 投票は、郵送によるものとする。</p> <p>第13条 開票は、委員会が監事1名を立会人として行う。</p> <p>第22条 (1) 有権者は、所定の投票用紙を用いて投票する。 (2) 投票は、1人1票とする。 (3) 投票は、無記名とする。 (4) 投票は、郵送によるものとする。</p> <p>第24条 開票は、委員会が監事1名を立会人として行う。</p>	<p>第11条 (1) 有権者は、所定の投票用紙を用いて投票する。 (2) 投票は、1人1票とする。 (3) 投票は、無記名とする。 (4) 投票は、<u>電子投票で行うものとする。</u></p> <p>第13条 (1) 開票は、委員会が監事1名を立会人として行う。 (2) <u>委員会は有権者の投票先が特定できないものとする。</u></p> <p>第22条 (1) 有権者は、所定の投票用紙を用いて投票する。 (2) 投票は、1人1票とする。 (3) 投票は、無記名とする。 (4) 投票は、<u>電子投票で行うものとする。</u></p> <p>第24条 (1) 開票は、委員会が監事1名を立会人として行う。 (2) <u>委員会は有権者の投票先が特定できないものとする。</u></p>

第 24 回年次大会のご案内【直前号】

年次大会委員会 委員長：中川一史（放送大），副委員長：中橋雄（武蔵大），
小林祐紀（茨城大：開催地）
大会実行委員会 委員長：村野井均（茨城大），委員：石川勝博（常磐大），
小林祐紀（茨城大）

1. 開催時期・場所等

- ・開催期日：2017 年 10 月 14 日（土）～15 日（日）
- ・開催場所：茨城大学教育学部（水戸キャンパス）水戸市文京 2-1-1
- ・年次大会サイト：<http://jaems.jp/conference/>

2. 大会日程（予定）

○10 月 13 日（金）

16：00～18：00 理事会（茨城大学図書館 2 階セミナールーム）

○10 月 14 日（土）会場：午前：茨苑会館 午後：教育学部 A 棟，ライブラリーホール

9:30～ 受付（午前：茨苑会館 1 階 午後：教育学部 A 棟 1 階）

10:00～11:30 地元企画：公開授業と振り返り

教科学習におけるプログラミング教育（小学校第 6 学年）

授業者：清水 匠（茨城大学附属小学校）

司会：中川一史（放送大学），コメンテータ：小林祐紀（茨城大学）

11:30～12:30 昼食（公開授業会場を昼食会場として使っていただくことが可能です）

12:30～13:20 総会（茨苑会館）

13:30～15:30 一般研究発表（1 件あたり 30 分発表）※質疑と交代を含む

15:50～17:10 シンポジウム I 『授業実践における教育メディアの役割』

（図書館 2 階ライブラリーホール）

登壇者：梅村研（文部科学省），寺嶋浩介（大阪教育大学），

臼井英成（那珂市教育委員会），石井里枝（仙台市立錦ヶ丘小学校）

コーディネータ：黒上晴夫（関西大学/本会会長）

17:30～19:30 懇親会（同キャンパス内大学生協 2 階を予定）

※14 日（土）は，水戸キャンパス内にて，茨城県教育研究連盟研究集会，放送大学関連イベントが開催されています。大変混み合いますことご容赦下さい。

※14 日（土）は，大学生協は営業しています。また近隣の店（コンビニ含む）も営業しておりますので，弁当の申し込みは行いません。

○10 月 15 日（日）会場：教育学部 B 棟・D 棟

9:00～	受付（教育学部 B 棟 1 階）
9:30～11:30	課題研究発表
11:30～12:30	昼食（当日は大学生協がお休みです。事前に弁当の申込を受け付けます。また、各研究発表会場を昼食会場として使っていただくことが可能です）
12:30～14:30	一般研究発表（1 件あたり 30 分発表）※質疑と交代を含む
14:45～16:45	シンポジウムⅡ『学校放送番組とメディア・リテラシー』（D201 教室） 登壇者：村野井 均（茨城大学），宇治橋 祐之（NHK 放送文化研究所）， 薄井 直之（古河市立上大野小学校） コーディネータ：中橋 雄（武蔵大学）

3. 課題研究

課題研究 1 「アクティブ・ラーニングの実践と評価」

コーディネータ：泰山 裕（鳴門教育大学），岩崎千晶（関西大学）

「アクティブ・ラーニング」という言葉が注目されてから、様々な実践が積み重ねられてきました。初等中等教育においては、次期学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」という学びの姿が記述され、高等教育においては平成 24 年度の答申において学生にとって受動的な教育の場からアクティブ・ラーニングへの転換が必要だと提示されるなど、アクティブ・ラーニングを目指した実践の重要性はますます高まっています。そこで、本課題研究では、アクティブ・ラーニングのための授業設計や実践、評価方法などに関わる発表を募集します。小学校、中学校、高等学校、大学などの実践研究者が交流し、それぞれの校種におけるアクティブ・ラーニングの特徴を整理しながら幅広い視点からアクティブ・ラーニングについての議論を深めたいと考えています。

課題研究 2 「グローバル時代におけるメディア活用」

コーディネータ：佐藤慎一（日本福祉大学），山本良太（東京大学）

メディアは文字通り、何かと何かを取り結ぶ際に中間で作用するものです。近年のグローバル化に伴い、国境や文化、集団を越えた様々な実践が展開されていますが、本課題研究では、そうした様々な実践においてメディアをどのように活用することができるかを議論します。事例として、海外との協働プロジェクトや交流学习、異文化間教育、持続可能な開発のための教育（ESD）、日本人学校・補習授業校での教育実践、国際教育開発の実践などを幅広く募集し、グローバル時代におけるメディアの在り方について検討します。

課題研究 3 「授業・学習を再定義する教育メディア」

コーディネータ：稲垣忠（東北学院大学），林向達（徳島文理大学）

クラウドサービスや学習者用端末の普及は、授業や学習をどう変えていくのでしょうか。授業時間にしばられることなく、いつでもどこでも主体的に学ぶ、ソーシャルメディアでさまざまな他者と協働するなど、多様な可能性が拓かれつつあります。本課題研究では、反転授業、ブレンデッドラーニング、学校と家庭の学習連携、授業外学修、オープン教材の活用等、学校種を問わず、教育メディアによって実現される学習環境と、そこで展開される学びについて新たな視座、実践、実証成果等を交流し、今後の教育

メディア研究に資する討議を展開します。

課題研究4「メディア・リテラシー教育の新しい展開」

コーディネータ：佐藤和紀（常葉大学），後藤康志（新潟大学）

ICT環境の急速な進歩により，児童生徒のメディア利用には大きな変化があります。学校におけるタブレット端末導入など学習環境の変化に伴って，メディア・リテラシーとその教育に関する研究の重要性も増しています。一方，次期学習指導要領では，「何を学ぶか」だけではなく「どのように学ぶか」や「何ができるようになるか」も重視されているものの，こうした新しい展開に対応する研究や実践が十分に蓄積されているとはいえません。このような状況をふまえ，本セッションでは，タブレット端末を活用した実践やソーシャルメディアの時代に対応した学習などに関する理論的，実践的な研究を幅広く募集します。

4. 昼食

- ・参加者各自でお願いいたします。
- ・大会期間中，14日（土）は大学生協・図書館1階カフェが営業しています。また近隣には，学生向けの飲食店，コンビニがあります。そちらをご利用ください。
- ・15日（日）は大学生協・図書館1階カフェなどは営業しておりません。そのため弁当（お茶含み1000円）の販売をいたします。事前申し込みを受け付けますので，taikai2017@jaems.jp に **9月30日まで**にご連絡ください。ご予約をいただいた方のお弁当は確保いたします。当日買われる方のお弁当は，無くなり次第販売終了となります。
- ・支払いは予約の場合も含めて，現金にて，その場でお願いいたします。
- ・上記のように昼食に少々ご不便をおかけいたします。あらかじめご承知おき下さい。

5. 参加申し込み

- ・参加申し込みは，昨年通り，以下の通りとします。
- ・発表申し込みはすでに終了しています。

会員 3000円（事前），4000円（当日）

学生会員 1000円（事前），2000円（当日）

非会員 4000円（事前），5000円（当日） ※ただし，非会員の現職教員は無料

学生非会員 2000円（事前），3000円（当日）

懇親会 5000円（学生 3000円）

- ・懇親会会場の準備の都合上，事前の参加申し込みと入金をお願いします。なお，懇親会参加費は事前・当日ともに同じ料金です。
- ・事前参加申し込みの締め切りは，**9月24日まで**とします。
- ・本大会においては，非会員の現職教員の場合，参加を無料と致します。できるだけ多くの参加者にご参集いただき，学会の認知や入会を促す意図がありますので，ご了承願います。

<事前参加申し込みに関わる送金先>

銀行名：セブン銀行

店名：カーネーション支店

種目：普通

店番号：105

口座番号：1523107

名義：小林祐紀（コバヤシユウキ）

・振込手数料は、ご負担ください。

・ご自身の口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、y_k0803@vc.ibaraki.ac.jp にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振込は、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。

・発表者は、参加費とは別に年会費を納めている必要があります。

会費に関する規定は、以下をご覧ください。

<http://jaems.jp/about/kitei/kaihi.html>

・参加者のうち学会員は、本年度の会費をできるだけ事前にお支払いください。当日お支払いいただくこともできますが、事務局の運営にご協力ください。なお、入金口座は、「事前参加申し込みに関わる送金先」と異なり、以下となります。

<本年度年会費の振り込みに関わる送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行

種目：普通

店番：418

店名：四一八店（ヨシイチハチ店）

口座番号：0865850

名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）

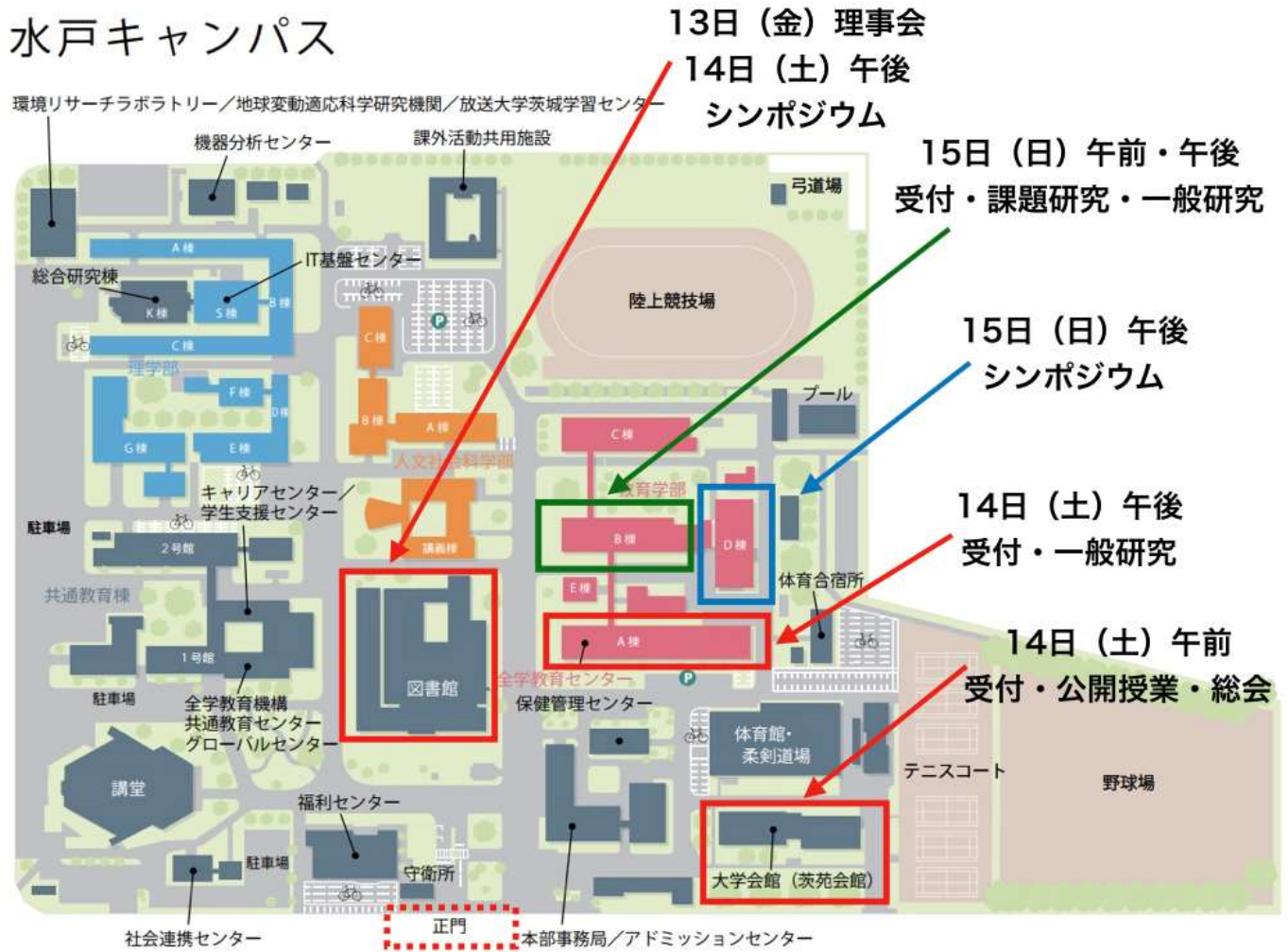
6. 会場までのアクセス

・JR 水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」に乗車、「茨大前」で下車。時間帯によっては、「茨大正門前」（最寄り）で下車することができます。（バス乗車時間は約25分）

<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/index.html>

※大学への自家用車でのご入校はご遠慮ください。大学正門前に1箇所コインパーキングがありますが、当日は混雑が予想されます。

水戸キャンパス



7. 一般研究・課題研究プログラム

一般研究プログラム 10月14日(土)・1日目

13:30~15:30 一般研究発表 I (1件あたり20分発表10分質疑) ※入れ替え時間含む

◎一般研究発表の司会は、1件目と3件目の発表者から事務局にて決めさせていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

◎各会場にはプロジェクターもしくは大型テレビが準備されています。PCなどの準備はありません。各発表者にて準備のほどよろしくお願いいたします。また、PCとの接続ケーブルに関して、1日目はRGB・HDMIケーブルの両方、2日目はRGBケーブルのみです。ご注意ください。

A1 一般研究 I-1 (A221 教室) 10月14日(土) 13:30-15:30

司会：佐々木 輝美 (獨協大学) 久保田 賢一 (関西大学)

A1-1 ゲームレーティングの国際化と文化的要因
佐々木 輝美 (獨協大学)

A1-2 EFL 授業 における MOOCs の活用事例とその有効性：大学1年生への取り組み
佐藤 泰子 (新潟国際情報大学)

- A1-3 日米協働環境学習プログラムに見る「媒介された行為」
久保田 賢一（関西大学）
- A1-4 教育メディアとしての限界集落の可能性
木村 剛隆（関西大学大学院），久保田 賢一（関西大学）

B1 一般研究 I - 2 (A222 教室) 10月14日(土) 13:30-15:30

司会：菊地 寛（浜松市立雄踏小学校）佐藤 幸江（金沢星稷大学）

- B1-1 小学校社会科において学校放送を地域学習で活用するための
パフォーマンス評価に関する研究
菊地 寛（浜松市立雄踏小学校），中川 一史（放送大学），今野 貴之（明星大学）
- B1-2 特別の教科道徳における ICT 活用
-対話の時間を確保し「考え議論する」指導方法の検証-
森口 智貴（関西大学）
- B1-3 児童の新聞に対するイメージ調査
佐藤 幸江（金沢星稷大学），村井 万寿夫（金沢星稷大学），中川 一史（放送大学），
小林 祐紀（茨城大学）
- B1-4 フォトポエム指導経験者による作品評価プロセスについての考察
石田 年保（松山市立椿小学校），佐藤 幸江（金沢星稷大学），
中川 一史（放送大学）

C1 一般研究 I - 3 (A430 教室) 10月14日(土) 13:30-15:30

司会：浅井 和行（京都教育大学大学院）福田 晃（金沢大学人間社会学域学校教育
学類附属小学校）

- C1-1 教科「情報」による各教科の活用を見据えたプレゼンテーション能力の育成
小川 もも美（京都教育大学大学院），浅井 和行（京都教育大学大学院）
- C1-2 小学校におけるプレゼンテーション指導の教育的効果（予報）
薄井 直之（古河市立上大野小学校），大田 俊彦（古河市立上大野小学校）
- C1-3 異年齢学級における児童の情報活用の実践力に関する一考察
-小学校中学年社会科における表現力を対象として-
福田 晃（金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校），中川 一史（放送大学），
今野 貴之（明星大学）
- C1-4 高校生の統計情報に対する批判的な行動尺度の作成
古賀 竣也（筑波大学大学院）

D1 一般研究 I - 4 (A433 教室) 10月14日(土) 13:30-15:30

司会：吉岡 有文（立正大学）石川 勝博（常磐大学）

- D1-1 1930年代の赤羽小学校における映画教育
吉岡 有文（立正大学）

- D1-2 博物館職員のための映像制作ワークショップの開発
水野 萌 (筑波大学), 西岡 貞一 (筑波大学)
- D1-3 携帯メールの代替としてのLINE (2)
石川 勝博 (常磐大学)
- D1-4 番組制作者による記述の分析に基づいたテレビ・ドキュメンタリーのリテラシーの構成要素の検討
村井 明日香 (桜美林大学), 堀田 龍也 (東北大学)

課題研究プログラム 10月15日(日)・2日目

9:30~11:30 課題研究発表

K-1 課題研究1 「アクティブ・ラーニングの実践と評価」(B203 教室)

コーディネータ: 泰山 裕 (鳴門教育大学), 岩崎千晶 (関西大学)

- K1-1 教科横断的な見方・考え方の評価手法とその結果の検討
泰山 裕 (鳴門教育大学)
- K1-2 小学校外国語科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する ICT 機器活用の実践と課題～「発表活動」のパフォーマンス評価について考える～
山川 拓 (京都教育大学附属桃山小学校), 浅井 和行 (京都教育大学),
泉 恵美子 (京都教育大学)
- K1-3 国際バカロレアにおけるアクティブ・ラーニングの実践と評価
荒木 貴之 (武蔵野大学), 佐藤 和紀 (常葉大学), 堀田 龍也 (東北大学)
- K1-4 複数クラス開講の初年次科目におけるALの導入実践と評価
千葉 美保子 (関西大学), 森 朋子 (関西大学), 紺田 広明 (関西大学),
岩崎 千晶 (関西大学)

K-2 課題研究2 「グローバル時代におけるメディア活用」(B204 教室)

コーディネータ: 佐藤慎一 (日本福祉大学), 山本良太 (東京大学)

- K2-1 島国日本とカンボジア, フィリピンとの協働授業: 一過性に終わらない Skype 活用デザインと定着のため QR コード利用
影戸 誠 (日本福祉大学), 佐藤 慎一 (日本福祉大学)
- K2-2 難民のインターネット活用と異文化体験: トルコのシリア難民のライフストーリーから読み解く
岸 磨貴子 (明治大学), エバ ハッサン (国際キリスト教大学)
- K2-3 国際教育協力における教育方法変容に向けた相互作用に関する研究: フィリピン共和国レイテ州での取り組みを事例として
山本 良太 (東京大学)
- K2-4 OER 提供の文化的差異: 日本の教員が教材を世界に公開する難しさの考察
高林 友美 (獨協大学大学院)

K-3 課題研究3 「授業・学習を再定義する教育メディア」(B207 教室)

コーディネータ：稲垣忠（東北学院大学），林向達（徳島文理大学）

- K3-1 メディア環境の変化と学校教育をめぐる諸言説の検討
稲垣 忠（東北学院大学），林 向達（徳島文理大学）
- K3-2 反転学習にビデオは必要か
矢野 浩二郎（大阪工業大学）
- K3-3 タブレット端末環境下で児童生徒の情報の階層化に活用できるアプリの操作意図の分析
中川 一史（放送大学），村井 万寿夫（金沢星稜大学），
佐藤 幸江（金沢星稜大学），小林 祐紀（茨城大学），
岩崎 有朋（岩美町立岩美中学校），鈴木 広則（スズキ教育ソフト），
森下純一（スズキ教育ソフト）
- K3-4 諸活動における学びの経験を情報活用の視点から再構成する試み
-小・中連携による学習指導場面の帰納的な整理をもとにして-
山口 好和（北海道教育大学函館校），
郡司 直孝（北海道教育大学附属函館中学校），
談殿 均（北海道教育大学附属函館小学校）

K-4 課題研究4 「メディア・リテラシー教育の新しい展開」(B208 教室)

コーディネータ：佐藤和紀（常葉大学），後藤康志（新潟大学）

- K4-1 メディアで表現する活動における児童用学習到達目標チェックリストの開発と評価
山口 眞希（金沢市立大徳小学校・放送大学大学院），中橋 雄（武蔵大学），
中川 一史（放送大学）
- K4-2 高校生を対象としたラジオ局におけるメディア・リテラシー育成プログラムの改善およびその教育効果
後藤 心平（東北大学大学院），佐藤 和紀（常葉大学・東北大学大学院），
堀田 龍也（東北大学大学院）
- K4-3 批判的思考ルーブリックとトウルミンモデルを組み入れたメディア・リテラシーの育成
後藤 康志（新潟大学），下郡 啓夫（函館工業高等専門学校）

一般研究プログラム10月15日（日）・2日目

12：30～14：30 一般研究発表Ⅱ（1件あたり20分発表10分質疑）※入れ替え時間含む

A2 一般研究Ⅱ-1 (B203 教室) 10月15日（日） 12:30-14:30

司会：池尻 良平（東京大学）冬野 美晴（九州大学）

- A2-1 協調的な歴史的類推を促すグループ編成システムの開発
池尻 良平（東京大学），吉川 遼（名古屋学芸大学），澄川 靖信（東京理科大学）
- A2-2 Google Maps API を利用したオンラインマップ・アプリケーションのメディア・情報演習授業での利用
稲垣 秀人（城西国際大学）

- A2-3 遠隔教育におけるテレプレゼンスツールの比較実験
冬野 美晴 (九州大学)
- A2-4 顔検出技術を活用した授業撮影による受講者の学習意欲・興味の可視化に関する研究
奈良 堂史 (関東学院大学), 杉原 亨 (関東学院大学),
小山 巖也 (関東学院大学), 林 昌宏 (富士通株式会社),
木村 剛美 (富士通株式会社), 藤本 敏浩 (富士通株式会社),
宮田 和幸 (富士通株式会社)

B2 一般研究Ⅱ－２ (B204 教室) 10月15日(日) 12:30-14:30

司会：石川 等 (身延町立下山小学校) 二田 貴広 (奈良女子大学附属中等教育学校)

- B2-1 学習指導要領改訂期の小学校国語科教科書における物語教材の映像メディアの理解と表現に関する分析
石川 等 (身延町立下山小学校), 中川 一史 (放送大学), 中橋 雄 (武蔵大学),
佐藤 幸江 (金沢星稜大学)
- B2-2 中学校の美術科教員を対象にした鑑賞用作品提示メディアに関する調査の結果と考察
臼井 昭子 (東北大学大学院), 佐藤 克美 (東北大学大学院),
堀田 龍也 (東北大学大学院)
- B2-3 中等教育国語科でのプログラミング学習単元の開発～表現スキルを戦略的に用いるコンピテンシーの涵養を目指して～
二田 貴広 (奈良女子大学附属中等教育学校)
- B2-4 マンガの読解力と文章の読解力の関係性-小学校第6学年を対象とした実験的検討-
大久保 紀一郎 (東北大学・島根県江津市立津宮小学校), 和田 裕一 (東北大学),
窪 俊一 (東北大学), 堀田 龍也 (東北大学)

C2 一般研究Ⅱ－３ (B207 教室) 10月15日(日) 12:30-14:30

司会：松下 幸司 (香川大学) 小柳 和喜雄 (奈良教育大学大学院)

- C2-1 学校 Web の活用に関する教職員の意識に関する研究
松下 幸司 (香川大学), 佐藤 幸江 (金沢星稜大学), 中川 一史 (放送大学),
古野 崇之 (㈱ジェイアール四国コミュニケーションウェア)
- C2-2 初等中等教育における 8K スーパーハイビジョンの教育効果と「経験の円錐」における位置づけに関する研究
藤村 裕一 (鳴門教育大学), 黒田 みゆき (鳴門教育大学),
落合 淳 (日本放送協会), 服部 弘 (NHK エデュケーショナル),
宇治橋 祐之 (NHK 放送文化研究所)
- C2-3 教職大学院における ICT 活用指導力育成プログラムの運用評価
小柳 和喜雄 (奈良教育大学大学院)
- C2-4 小学校における 3D 撮影を通じた立体表現の学び
柴田 隆史 (東京福祉大学), 佐藤 和紀 (常葉大学・東北大学)

司会：後藤 康志（新潟大学） 木村 明憲（京都教育大学大学院）

- D2-1 教養教育におけるメディア・リテラシー育成の事例研究
後藤 康志（新潟大学）
- D2-2 メディアのあり方を提案する能力を育む指導方法の研究
片岡 義順（川崎市立新城小学校），中橋 雄（武蔵大学），
古田 尚磨（日本放送協会），三井 広樹（日本放送協会）
- D2-3 情報活用能力を育成する教科「メディア・コミュニケーション（MC）科」の教科用図書の開発
木村 明憲（京都教育大学大学院），浅井 和行（京都教育大学大学院）
- D2-4 小学校新学習指導要領におけるメディア・リテラシーの要素の検討
浅井 和行（京都教育大学大学院），高桑 詩乃（京都教育大学大学院）

8. その他

・前回大会に引き続き本大会において、発表予稿集は刊行せず、会員の皆様に PDF ファイルの形での配布となります。事前にメールにてダウンロード先の URL をお送りします。ご自身の端末等を持参するか、事前に学会の Web からプログラムの印刷をお願いします。

・年次大会開催日に、栃木県にて規模の大きなバイクレースが予定されています。したがって水戸のホテル等を予約するのが大変難しい状況です。ご迷惑をおかけします。その場合、友部，土浦，勝田，日立あたりが近隣となります。

・年次大会に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

日本教育メディア学会第 24 回年次大会事務局

茨城大学 教育学部 小林研究室

電話：029-228-8321 メールアドレス y_k0803@vc.ibaraki.ac.jp

ICoME 2017 のご報告

ICoME2017 成功裏に終了 来年は韓国にて実施

研究委員会（国際研究会 ICoME 担当）

日本教育工学会は、日本教育メディア学会（JAEMS）、日本教育工学会（JSET）、韓国教育情報メディア学会（KAEIM）、中国教育工学会（CAET）、アメリカ TCC（Technology, Colleges and Community）との連携のもと、第 15 回目の国際大会 ICoME（International Conference for Media in Education）を下記の通り実施しました。

日時：2017 年 8 月 2 日-4 日

場所：ハワイ大学マノア校

詳細：<https://icome2017.net/>

第 15 回目 ICoME では、アメリカ TCC が中心となり「4Cs for Learning : Collaboration, Creativity, Communication & Critical Thinking」をテーマとして、日本、韓国、中国、米国の参加者を中心に各国における教育メディア研究に関する研究発表が行われました。キーノートスピーチでは、米国のアリゾナ州立大学 Wilhelmina Savenye 教授が「STEM Engineering Education for All Learners」について講演されました。また、本国際学会の特徴のひとつである学生によるラウンドテーブルでも、学生たちは英語で熱心に議論を行いました。ICoME2017 の発表内容は、学会ウェブページから閲覧いただけます。

2 日目の発表一覧と発表の概要/発表原稿

<https://icome2017.net/session-schedule-for-wednesday-august-2-2017/>

3 日目の発表一覧と発表の概要/発表原稿

<https://icome2017.net/session-schedule-for-august-3-2017/>

また、学会 3 日目には、オバマ元大統領が通っていた有名校プナホスクールを訪問しました。プナホスクールでは、Wi-Fi が完備され、積極的に ICT を活用した教育実践が行われています。ICT を活用した教育環境について大変参考になる学校見学となりました

第 16 回 ICoME2018 は、2018 年 8 月 16 日-18 日（予定）に、KAEIM が中心となって韓国ソウルで実施します。多くの方のご参加をお待ちしております。

文責：日本福祉大学 影戸 誠

ICoME 2017 · University of Hawaii at Manoa · August 2-4



第1回企画委員会 ワークショップのご報告

企画委員会企画 第1回企画委員会企画ワークショップ報告

テーマ「次期学習指導要領を見据えた授業づくり」

企画委員会第1回ワークショップ担当

1. 日時：2017年7月15日(金) 9:50~12:30
2. 会場：金沢星稜大学キャリア館
3. 参加者：42名

今回の企画委員会企画は、昨年度同様に研究会委員会との合同企画といたしました。幼稚園・小学校・中学校の新しい学習指導要領が示され、高等学校学習指導要領も、年内の公表に向けて準備が進められています。今回の学習指導要領の改訂では、よりいっそうの思考力・判断力・表現力等の能力の育成が求められるとともに、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善が求められています。また、ICT活用の更なる推進、プログラミング教育の小学校への導入など、教育メディアをめぐる新たな課題が教育現場に投げかけられました。そこで、「次期学習指導要領を見据えた授業づくり」をテーマに、前半は、[文部科学省による次期学習指導要領の解説]、後半はそれを見据えた[先進的な授業実践発表と「主体的・対話的で深い学び」への授業づくりに関するディスカッション]を企画しました。研究者、実践者、教師をめざす学生と、様々な立場の参加者があり、熱心な議論が進められました。以下、簡単に会の様子をご報告いたします。

前半の[文部科学省による次期学習指導要領の解説]では、文部科学省生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室長安彦広齊氏にご講演いただきました。日本の教育の優れている点、気になる点を分析し、予測のできない未来に対応する力の育成と「主体的・対話的で深い学び」への授業改善する必要性等、丁寧に解説をいただきました。

後半は、[先進的な授業実践発表と「主体的・対話的で深い学び」への授業づくりに関するディスカッション]で、金沢市内・外の7名の小・中学校の実践者の方々に、それぞれの視点からの実践をまとめ、ポスターセッションという形式で発表いただきました。「タブレット端末を用いた対話を通した社会科の課題解決学習」「プログラミングを用いた科学的思考・表現を育成する理科授業」「iTunes Uの授業コースで主体的な学びを」等、今日的な課題を含んだ発表でした。発表者と聴衆が近い距離で質疑応答を行うことができる「ポスターセッ



写真1：安彦氏の講演

ョン」形式が現場の先生にとってはあまり体験したことがないものであり、好評でした。その後のディスカッションでは、ポスターセッションの中で特に論議の中心となった点「資質・能力の評価」「ICTの効果的な活用」や「プログラミング教育の意義」等に関して、鋭い議論が進められました。特に、教育現場での戸惑いが多い「プログラミング教育」に関しては、「プログラミング的思考」の定義の多様性、教科として実施するための課題等が明確になりました。

前半、後半を通して、予測できない未来に柔軟に対応する力の育成の必要性を再認識するとともに、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に向けて、「学習課題の設定」「教科の関連化」「ICTの効果的な活用」「資質・能力の評価」「教師の役割」等に関して、多くの示唆をいただくことができました。

本研究会にご参加いただき、研究会を盛り上げて頂きました皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真2：動画を提示して質問に答える

報告者：佐藤 幸江（金沢星稜大学）

理事会（定例）議事録（抄）

第8期 第4回理事会（定例）議事録

[日 時] 2017年4月15日（土）13:00-15:30

[場 所] 東京（東京大学本郷キャンパス）、大阪（関西大学梅田キャンパス）、2会場をテレビ会議で結び実施

[出席者] 会長、理事14名、委任状（会長に一任）10名、監事1名

会長 大阪：黒上晴夫

理事 東京：宇治橋祐之、浦野 弘、岸磨貴子、後藤康志、佐藤幸江、中川一史、中橋雄、村野井均
大阪：影戸誠、久保田賢一、佐藤慎一、寺嶋浩介、永田智子、林向達

欠席（議長に委任）：浅井和行、稲垣忠、小柳和喜雄、小林祐紀、鄭仁星、鈴木克明、藤田稔、
堀田博史、堀田龍也、村上正行、渡辺雄貴

監事 東京：佐々木輝美、欠席：生田孝至

事務局 東京：山本良太、大阪：泰山裕

<審議事項>

（1）入会者・退会者について

事務局長から、前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。また、年会費未納による除籍者については次回の年次大会までの間を猶予期間とし、それまでに年会費の納入があれば除籍を取りやめることが承認された。

（2）2016年度事業報告・2017年度事業計画について

事務局長から、「2016年度事業報告・2017年度事業計画案」が示され、審議の結果承認された。

（3）年次大会の内容、参加費等について

年次大会委員長および大会実行委員長からシンポジウム・基調講演・課題研究、共催の計画が提案された。審議の結果、シンポジウム・基調講演のテーマ・登壇予定者、共催については原案通り承認され、課題研究については4つのテーマについて開催する計画が承認された。大会参加費については、昨年度と同様にする旨が確認された。また公開授業、開催場所の関係でプログラムの順番が変更になる可能性がある旨について報告された。

（4）学会通信 台割案について

広報委員会委員長から今後の学会通信（82～86号まで）の台割案について提案がなされ、審議の結果承認された。ただし、研究会などの開催日程により記事掲載予定号が変更になる場合があることが確認された。

(5) 顕彰について

事務局長から昨年度で終了した「井内賞」に変わる顕彰について「日本教育メディア学会論文賞」とすることが提案された。審議の結果、提案は認められ、対象を若手研究者に限定しないことが確認された。また、論文投稿の条件として筆頭著者が学会員であることを追加すること、賞金を5万円とし授与することで承認された。それに伴い顕彰委員の増員が提案され、原案通り承認された。

(6) 各種委員会規約について

事務局長から各種委員会規約の策定について説明があり、審議の結果承認された。

(7) 今後の選挙のあり方について

事務局長から、現在の選挙のあり方について説明があり、電子的な投票システムの採用とそれに伴う選挙規定の変更について提案され、今後の選挙の進め方について意見が交換された。選挙規定については次回の総会で承認を得ることとなった。

(8) その他

・NII-ELS の終了に伴う J-Stage への移行について

J-Stage への移行について、今後の移行作業について事務局長から説明があり、審議の結果承認された。

<各種委員会報告・審議事項>

(1) 編集委員会（国内担当）報告

編集委員会（国内担当）副委員長から『教育メディア研究』編集進捗状況について報告がなされた。また論文投稿のテンプレートの修正作業に着手することが提案され、審議の結果承認された。

(2) 編集委員会（国際担当）報告

編集委員会（国際担当）副委員長から、IJEMT ジャーナル編集の進捗状況について報告がなされた。また投稿数増加により委員の増員について提案され、審議の結果承認された。

(3) 研究委員会（国内担当）報告

研究委員会（国内担当）副委員長から、2016年度研究会開催報告と2017年度研究会開催日程・場所について報告がなされた。

(4) 研究委員会（国際担当）報告

研究委員会（国際担当）委員長から、ICoME2017開催に関する進捗状況について報告がなされた。また、学会員MLを通じて、会員に対してICoME2017参加者募集について周知することになった。

(5) 企画委員会報告

企画委員会委員長から、今年度の計画について報告がなされた。

(6) その他 次回理事会について

事務局長から次回理事会について報告があり、確認された。

以上

編集委員会からのお知らせ

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）

■『教育メディア研究』一般論文募集のお知らせ

『教育メディア研究』では、論文を広く募集しています。〆切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

締切：随時

■The International Journal of Educational Media and Technology (ICoME Journal)

第11巻1号が2017年8月に出版されました。著者およびレビューの皆様に感謝します。以下のウェブサイト参照してください。

<http://jaems.jp/contents/icomelj/icomelj.html>

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

◆ 除籍予定者の確認のお願い ◆

昨年度開催されました定例総会（2016年11月26日 於：奈良教育大学）にて、会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- (1) 正会員、学生会員、団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。
- (2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

今回に限り、10月に開催されます第24回年次大会までに未納分を納入いただければ、除籍を解除いたします。ご確認をよろしくお願いいたします。

会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

除籍予定者

・正会員

朝倉 暁生、石田 隆、岩見 龍也、上田 信行、エリック ブレイ、大庭 茂美、小川 雅弘、小田 光康、小野 和、神山 正人、河岸 美穂、神崎 友子、岸本 雅行、栗田 一誠、栗田 るみ子、栗原 泰子、コスギ ヤヨイ、近藤 武夫、笹倉 千紗子、田井 志保里、瀧口 美絵、塚野 弘明、徳村 朝昭、鳥山 正晴、中植 正剛、中島 俊明、中田 栄、中村 光伸、野崎 肇子、野田 令子、野呂 薫、藤原 典英、藤井 玲子、古川 典子、松崎 邦守、松山 明道、宮澤 誠一、宮田 義郎、元井 一郎、山田 恒夫、山村 繁典、山本 利江、横山 誠二、若松 茂、涌井 史郎、向角 典倫、横田 亮宏、今瀬 繁子、岩田 学、大貫 恵理子、小宮 孝司、佐伯 達也、安田 洋介、山中 司、中沢 保生、柳原 由美子、中島 公洋、寺岡 浩平、浅田 義和、稲井 達也、清水 和久、菅瀬 君子、深井 純、丸山 裕輔、水上 和夫、山中 昭岳、松本 有

・学生会員

青木 太郎、大福 聡平、中川 歩香、山口 晃平、丸山 俊幸、壹岐 信子、川口 弥生、富田 馨、野口 聡、平川 成一、三嶋 亜由美、安井 政樹、一藁 久美子、丁 愚錫、三瓶 頌太

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（10名）・・・矢野 浩二郎、兼清 慎一、太田 俊彦、松下 幸司、
千葉 美保子、飯島 千恵子、奈良 堂史、薄井 直之、
佐藤 泰子、藤村 裕一

新入会員・学生会員（3名）・・・酒井 郷平、木村 剛隆、水野 萌

会員総数 357名・17団体

名誉会員：3名

正会員：313名

学生会員：41名

団体会員：6団体

購読会員：11団体

（平成29年9月4日現在）

日本教育メディア学会 事務局

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88

大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内

E-mail：office@jaems.jp

学会ホームページ URL：<http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 後藤康志（新潟大学）

副委員長 渡辺 雄貴（東京工業大学）

委員 岩崎千晶（関西大学）

井ノ上憲司（大阪大学）

遠海友紀（京都外国語大学）